（R7.1.22追加）

（維管束植物）－影響は甚大であるが、駆除が困難なことから、やむを得ず対策の優先順位を低く設定したもの（優占群落を形成するなど生態系への悪影響は多大であるが、駆除にかかる労力が膨大であるため、対策の優先順位を下げ、Yとする種）

No	科名	和名	学名	ランク	定着	国指定の状況	本県での影響									分布 △：古い記録、不確実な情報、可能性高いもの						影響を及ぼすフィールド								備考
							生物多様性への影響				産業影響					人への影響															
				Z・・・警戒種 Y・・・注意種	○：定着 △：定着の怖れが高いもの	特定（特定外来生物） 被害（生態系被害防止外来種）	競合、捕食、駆逐など	交雑による遺伝的撹乱	在来生物への病原菌、寄生虫などの媒介	生態系基盤の改変	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神	播磨東部	播磨西部	但馬	丹波	淡路	池沼・湖沼	河川・水路（河川敷含む）	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草地	森林	市街地	
R7-1	タヌキモ	オオバナイトタヌキモ	*Utricularia gibba*	Y	○	被害					○			△								○	○								中山間地のため池の水面に緻密な葉群を形成し、マット状に覆いつくす。沈水・浮葉・浮遊植物への影響が大きい。
R7-2	イネ	キシュウスズメノヒエ	*Paspalum distichum var. distichum*	Y	○	被害	○				○			△			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						ため池や湿田の水際部に優占群落を形成し、湿生植物や抽水植物への影響が大きい。一方で、水生昆虫の棲みかになっている場合があるため、駆除するときは慎重に行う必要がある。